

# 平成24年度 岩瀬地区造形作品研究会 資料

■ 月 日：平成24年10月24日（水）

■ 場 所：須賀川市立第二小学校

■ 須賀川市立仁井田小学校 國井 伸行

## ■ 児童画の見方とこれからの絵画指導のあり方

### （1）形・色・イメージを意識して表現されているか。

- 人は色に引きつけられる。
- 色彩が豊かである。（例 木を様々な緑色で表現・・・混色）
- 形の面白さ
- 動きがある。 □ 全体にまとまりがある。 □ ボリュームがある。
- 空間を感じる事が出来る。 □ リズムがある。 □ 調和がある。

### （2）児童の発達段階に即しているか。

- 「児童の発達と表現との関係」についての理解がないまま指導をしているなど感じる作品がある。
- 低学年・・・重なり表現は難しい。主たる描画材はクレパス・コンテ等。水彩絵の具は、共用絵の具として使用する。パレットの扱いは難しい。版画は、型押し遊びやステンシル、紙版画等。
- 中学年・・・「いわゆる10歳の壁」を越えるとき。見たままに描こうとするようになる。主たる描画材は、水彩絵の具。版画は、ステンボード版画や、初歩的な木版画（線彫り）等。
- 高学年・・・様々な視点からの描画。イメージの組み合わせ。重な

りの表現。様々な描画材。版画は、高度な木版画（面彫り・彫り進み版画・多色刷り）等。

### **（３）描いた児童の気持ちが伝わってくるか。**

- 感動がない絵は、いくらテクニックがあっても見る人に伝わらない。
- 児童が「楽しかった。」と感想をもらしたか。芸術家を育てているのではない。うまい絵を描かせることが目的ではない。教育としての絵の指導であるという点は絶対に忘れてはいけない。

### **（４）作品に対する指導者のかかわりはどうか。**

- 指導過程を見たわけではないので、作品を見ただけでは、推察するしかないが、指導者の押し付けになっていないか。押し付けるのではなく、児童が困っているときに様々な助言ができる引き出しをたくさん持てる教師に。

### **（５）児童の表現への工夫が伝わってくるか。～造形性の豊かさ**

- 同じ題材で描いても、児童一人一人の創意工夫が感じられるような指導でありたい。

### **（６）絵と描いた児童のかかわりが感じられるか。～個性的であること**

- 感情、愛情がにじみ出ている。（見る人の顔がほころぶ）
- 対象から受けた感動をストレートに表している。
- その子なりの工夫が見られる。
- 対象と本人との関わりが感じられる。